

第1学年英語科 学習指導案

日 時： 令和5年9月13日（水）5校時

場 所： 1年4組教室

授業者：

1 単元名 New Horizon English Course 1 『Let's Talk 1 許可を求める・依頼する』 p.64

2 単元の見積

身近な人に許可を求めたり、依頼したりすることができる。【話すこと（やり取り）】

3 指導計画：総時数2時間（本時1／2時間）

(1) 許可を求めたり、依頼したりする Can I~? Can you~?の働きについて理解し、イングリッシュ・イマージョン・キャンプ(EIC)の場면을想定した中で活用することができる。（本時）

(2) EICの場面において、ALTや同じ中学生に自分がしたいことや頼みたいことを伝えるために、第1時で学習した許可を求めたり依頼をしたりする表現を含むスキットを作成し、発表する。

4 評価規準

時数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1時	許可を求めたり、依頼したりする Can I~? Can you~?の働きについて理解し、実際のコミュニケーションの場面において活用することができる。	本時においては、記録に残す評価は行わない。	本時においては、記録に残す評価は行わない。
第2時	本時においては、記録に残す評価は行わない。	身近な相手に自分のしたいことや頼みたいことを伝えるために、場面や状況にあった表現を用いて、許可を求めたり依頼をしたり、それに適切に応答したりしている。	身近な相手に自分のしたいことや頼みたいことを伝えるために、場面や状況にあった表現を用いて、許可を求めたり依頼をしたり、それに適切に応答したりしようとしている。

5 単元について

(1) 教材観

本単元では、家族や友人など親しい関係の相手に対し、したいことや頼みたいことを伝えたり、それに適切に応答したりする表現について学習する。日常生活において、誰かに頼みごとをしたり、されたりする場面は頻繁にある。本単元は生徒にとって実生活と結びつけて捉えやすい、実用的な学習内容であると考える。また、今回学習する表現は、小学校段階から触れている"can"を用いた表現であるため、生徒にとっては習得しやすいものと思われる。これまで学習してきた can の働きとの違いに気づかせながら、実際のコミュニケーションの場面を通して定着につなげたい。また本単元の学習内容が、生徒の今後のALTとのやり取りや、将来の英語体験の中で役立つことを期待したい。

(2) 生徒観

男子12名、女子15名、計27名の学級である。内15名は、本事業の拠点校である中央台東小学校の出身で、5年生の時に授業者自身が1年間指導を行った生徒達である。また昨年度においても、ふくしま外国語教育推進リーダーによる指導を経験しており、本事業に関わる指導を継続して受けてきた生徒達である。その他、本事業の協力校である中央台南小出身の生徒や、鹿島小学校出身の生徒も、それぞれの小学校での学習経験を生かして意欲的に英語学習に取り組んでいる。英語に対する得意・不得意の意識に差はあるが、他者と協同的に活動したり、身振り手振りなどを交えながら粘り強く自分の考えを伝えようとしていたりできる生徒が多い学級である。明るい雰囲気の中で、チャレンジ精神をもって英語学習に取り組むことができる学習集団を目指して、日々指導を続けている。

(3) 指導観

本時は「許可を求める」「依頼する」という can を用いた疑問文の働きに気づき、実際のコミュニケーションの場面で活用する技能を身につけられるよう「Input・Intake・Output」の段階的な授業設計を意図している。Outputにあたる Activity の内容については、現実的な目的・場面・状況として、いわき市の中学2、3年生の希望者が参加することができる「イングリッシュ・イマージョン・キャンプ」を題材とした。映像や画像を用いた導入で生徒の興味・関心を引き、自分達が次年度に参加者となった際、想定される様々な「許可を求める」「依頼する」場面や状況に応じて適切な表現を考え、対話に取り組ませる。また、今年度の中教研のテーマである中間指導も取り入れ、生徒が本時のねらいに近づくために、考えを形成・再構築する場面を設定する。終末場面では、CAN-DO リストを用いて自分の学習を振り返る時間を設定することで、生徒の自己調整能力を育む。

本時の学習をもとに、第2時では「許可を求める」「依頼する」表現に加えてその前後のやり取りも考えさせ、生徒の思考力・判断力・表現力を生かしたスキット作成へと取り組ませ、英語による発信力の向上へとつなげたい。

6 小中連携の視点

これまでの取り組みを通して作成した、小中連携 CAN-DO リスト“Minami English Roadmap”に示されている各学年の領域別目標に基づいて、授業設計を行っている。本リストを小中学校でそれぞれ参照し、各学年間での指導の積み重ねや、教科書題材の関連などを意識しながら指導を行うことで、小中の英語学習が円滑につながるものと考えている。

7 本事業の目的との関連

- (1) 言語活動を通して、英語による発信力を強化する。
- (2) CAN-DO リストの効果的な運用を図る。

8 学習過程

段階	学習活動・内容	形態(時間)	○指導上の留意事項 評価(手立て)
導入 15分	<p>1. Noticing Today's Target Phrases</p> <p>(1) 教師とALTの対話映像を見て、どのような話をしてきたかを確認する。</p> <p>(2) これまでに学習した Can you...?の文と、映像に出てきた Can I...? / Can you...?の文の違いを考える。 Can you speak Japanese? (能力) Can you eat natto? (能力) Can you open the door? (依頼) Can I sit here? (許可)</p>	<p>一斉(5)</p> <p>個人ペア(5)</p>	<p>○ 生徒の理解度に応じて、映像をくり返し視聴させたり、その場で発音して聞かせたりする。</p> <p>○ 例文をいくつか提示し、言語の働きの違いに気づかせる。最初は個人で考えさせ、ペアでの確認、全体での確認へと移る。</p>
	<p>2. Understanding Today's CAN-DO</p> <p>ALTからのビデオレターを見て、「イングリッシュ・イメージジョン・キャンプ(以下、EIC)」について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>EICの参加者になったつもりで、自分がしたいことや、頼みたいことを伝えられるようになるろう。</p> </div>	一斉(5)	<p>○ 生徒が「楽しそう」「参加してみたい」といった気持ちをもてるよう、実際の写真などを提示する。</p> <p>○ 「本時を通して目指す姿」を強調するため、Today's CAN-DOという言葉を用いて本時の目標を示す。</p> <p>○ 学習の見通しをもたせるため、本単元のCAN-DO/TO-DOシートを配布する。</p>
展開 30分	<p>3. Practice "SUGOROKU"</p> <p>身近な相手に許可を求めたり、依頼したりする場面に関連する表現について、すぐろくのマスに示された課題に答える。</p>	グループ(10)	<p>○ 教科書 p.64 を参考として提示する。</p> <p>○ すぐろくの課題が、次の活動に取り組む際のヒントとなるようにする。</p>
	<p>4. Activity "Card-Shuffle Talk①"</p> <p>EICの様々なシチュエーションで、許可を求めたり、依頼したりする場面が書かれたカードを見て、友達と対話を行う。</p>	ペア(5)	<p>○ 活動のルール説明を行った後、まずは取り組ませる。生徒の困り感を、次のBlush-up Timeへと生かす。</p> <p>○ 生徒の活動状況を把握し、共通するエラーや優れた取り組みがあれば記録しBlush-up Timeで共有する。</p>
	<p>5. Blush-up Time</p> <p>英語でうまく言い表せなかった部分について、全体で適切な表現を考える。</p> <p>6. Activity "Card-Shuffle Talk②"</p> <p>Blush-up Timeで学習したことをもとに、再び活動に取り組む。</p>	<p>一斉(5)</p> <p>ペア(5)</p>	<p>○ 「難しい表現はあった？」などと問いかけ、生徒のつまづきを拾いながら、全員がねらいを達成できるよう修正を図る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>許可を求めたり、依頼したりする Can I~? Can you~?の働きについて理解し、実際のコミュニケーションの場面において活用することができる。【知識・技能】(観察)</p> </div>
終末 5分	<p>7. "CAN-DO" Reflection</p> <p>CAN-DOリストで本時の学習を振り返る。</p> <p>8. Greetings</p>	<p>個人(4)</p> <p>一斉(1)</p>	<p>○ 次時のスキット作成について説明し、学習の見通しをもたせる。</p> <p>○ 今後の学習への意欲を高めるために、本時の取り組みを総括し、賞賛や励ましを行う。</p>